

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト <u>ICT</u> 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	モビリティ・マネジメント（MM）	担当部署	大阪支店 道路・構造部
NETIS登録番号	該当なし	担当者	三上 和宏
社名等	八千代エンジニアリング（株）	電話番号	06－6945－9240
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 某県では、クルマ利用の割合が極めて高い現状を踏まえ、中心都市圏における交通課題を解決する方策のひとつとして、クルマから他の手段への転換を促すことを目的とした、モビリティ・マネジメント（コミュニケーション施策により意識・行動を変容させる方策）に関する取り組みを始めた。これにより地球環境への影響低減、公共交通利用促進、渋滞緩和、健康増進、集約型都市の形成等への寄与を目指している。 モビリティ・マネジメントの一環として、事業所の従業員の通勤行動を対象に、通勤方法について「考える機会」を提供しクルマ以外で通勤することを促す「エコ通勤アンケート」の試行・調査を開始し、継続的に取り組んでいる。 2. 技術の内容 基礎調査として、モビリティ・マネジメントの考え方に基づく取り組みの可能性を模索するため、都市圏の事業所を対象に、「エコ通勤」の呼びかけを試行している。具体的な手法は、「エコ通勤アンケート」（従業員へのコミュニケーションアンケート+フォロー）であり、アンケートで考える機会を提供することにより、意識の変容、さらには自発的な行動の変容をねらいとしている。継続的に複数年にわたり、事業所を介して従業員に呼びかけを行っており、新規・継続事業所の動向、大手や中小事業所の状況、事業所自体の参加率向上の可能性等について試行・調査を行っている。 3. 技術の効果 同一事業所へ継続的に取り組んだ結果、一旦参加した大手・中小事業所には継続して参加頂けるとともに、事業所内で参加従業員が増加する傾向が確認できた。また、新規参加事業所募集の際に小冊子、体験談や視覚に訴える案内チラシを同封するなど、ツールの工夫によって、事業所自体の意識を変容し取組みに参加する事業所の割合を向上できる可能性があることが確認できた。通勤以外に関する基礎調査にも取り組み中であり、短距離のクルマ利用から徒歩・自転車利用へのライフスタイルの変容を通じ、まちなかの賑わい創出等への寄与を目指す際の着眼点やターゲットを模索している。今後も調査・試行を継続し、取り組み方策の研究と効果の可能性に関する検証を行っていく。 4. 技術の適用範囲 ・全国で同様の状況にある地域で対応可能。 5. 活用実績 国の機関 0 件（九州 0件 、九州以外 0件 ） 自治体 3 件（九州 0件 、九州以外 3件 ） 民 間 0 件（九州 0件 、九州以外 0件 ） ※当社の実績		

6. 写真・図・表

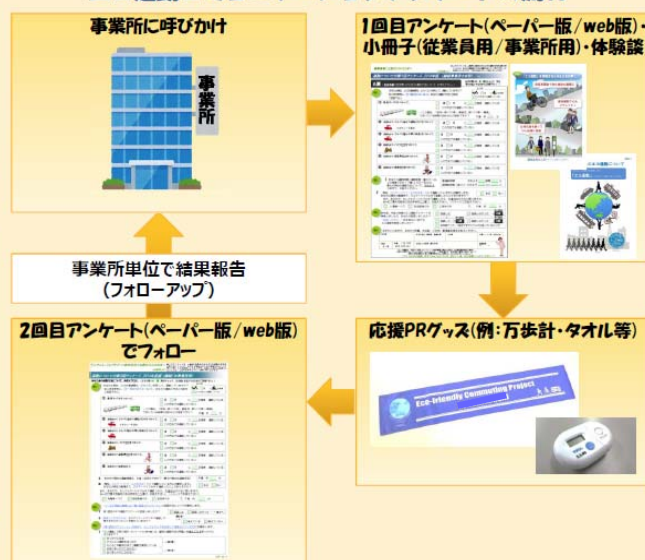
某県におけるモビリティ・マネジメント(MM)の取

- MMの取り組みは、対象も方法も多様。
まずは“通勤”に着目、「事業所従業員のエコ通勤」の試行・調査を開始。
- 小冊子・体験談による動機づけと、**エコ通勤アンケート**を実施。

- 現状・意向等を把握。**方向性・可能性を模索**することが目的の一つ。
- 主なねらいは、回答を通じた従業員の皆さま**一人一人への考える機会の提供**。
- 継続して取り組み、徐々に定着**していくことを目指す。

- 別途、買い物など通勤以外の日常の移動にも着目した**基礎調査**も開始。

エコ通勤コミュニケーションアンケートの流れ



エコ通勤アンケートの取組み実



エコ通勤アンケートの試行・調査から得られた

- エコ通勤アンケートで考えることが、意識の変容につながる。
- 事業所として取り組むことで、一定のエコ通勤実践者(3~5%程度)。
- 継続的に取り組むことで、事業所内で取り組みが拡がり定着**。
- 事業所の参加率が低い、呼びかけの工夫で事業所(担当者)の意識・認知が変わり、向上できる可能性。

今後のテーマ(試行・調査を継続しながら、方策メニューや工夫を模索)

- 事業所で定着・継続するためのアンケート等の新たな工夫は?
- 担当者(キーパーソン)への動機づけやモチベーションを持続する方策は?
- エコ通勤を考える機会が通勤以外のライフスタイルでのクルマ見直しにつながるか?まちの賑わいの創出に寄与するか?